

Create Happy 通信 第16号 ♪新春号♪

2010.12月発行

CHP 研究会代表 諸井英徳

新春号とはいうものの、この号が届くのは年内。そして、一番あわただしい時期に皆様のお手元に届くことでしょう。「あけましておめでとうございます」という言葉は、しらすらしく違和感を覚えますので、ここでは敢えて「おし迫りましたが、いかがお過ごしですか」とご挨拶させて頂きたいと存じます。

2010年は皆様にとって、どのような一年だったでしょうか？私にとっては、激動の1年でした。本当にたくさんの気づきを得ました。たくさんの人々に支えられました。感謝しなければなりません。

本質を見直す1年であったようにも感じます。クリニカル・ヘルスプロモーションの本質を見つめ直す機会を得ました。自分の医院の在り方を見つめ直す機会を得ました。そして、自分自身の在り方を見つめ直す機会を得ました。おかげで、最近は毎日がスタートから意気揚々としており、目覚めがすすがしくて仕方がありません。もちろん、課題はゼロになりませんから、脳を使ってしっかり対処しなければならないことはたくさんあります。しかし、極めて前向きに考え、行動を進められる自分がいます。こんな気持ちになれた経緯もこれから、セミナーの中でお伝えできればと思っています。

さて、来年のことに話しを移しましょう。来年は、CHP研究会を外に向かって大いに発信する年にしようと思います。それは自然な流れともいえます。注目されるスタディーグループになっている実感があります。ありがたいことです。このことは、私一人で出来ることでは到底ありません。今、CHPの中にいる全ての人が当事者です。当事者意識を持って私たちの考え方を発信してください。それは、市民に向かってもそうですし、医療関係者に向かってもそうです。様々な立場にいる人々に「エンパワーメント理論」を流布する必要があると考えます。また、そのような時期であると感じます。時代が変わっていると感じます。

先日のニュースです。初めて裁判員の合議で死刑判決が言い渡されました。私たち全員が裁判員に選ばれる可能性があります。つまり死刑も含め、生身の人間に対して罪を言い渡さなければならない、そんな場面に遭遇する時代なのです。裁判員の方々には本当に辛い選択をされたのでしょう、判決後のコメントを読んでも「辛かった」「被告には是非とも控訴してほしい」と言った内容のコメントが目立ちました。しかしながら、こんなコメントもありました「辛い判断ではあったが、この裁判に関わったことは良かったことだと感じる。有意義だった。国民が司法に関わるということ、自分たちの国の秩序維持に関わる

ことは大切なことだ。」

このコメントを読んで私が感じたのは、「これこそ、私たちの医院が目指すヘルスプロモーションと同じ発想だ！」ということです。

情報通信技術の進歩に伴って、世の中はどんどんフラットになっています。一昔前なら「知らない」「知りえない」ようなことが「知れる」時代になり、国民の知る権利も広がっています。そうすると、「プロ」と「素人」の垣根がどんどん低くなっていきます。「裁判は、司法試験に合格した法律のプロがやれば良い、素人は黙っておけ」という考え方からドンドン進化したのだと思います。医療も同じです。「医者が治してやっているんだから、素人は黙っておけ」という時代は終わりました。

どうやら、時代は「個人個人が自律的に物事を捉え、考え、行動する」自由と責務を求めているのだと思います。時代がようやく、私たちの考え方に追いついて来たのかも知れません。

今こそ、私たちの考えを広く伝える時期だと感じます。2011年は、CHPが大きく成長する1年にしたいと思います。歯科の世界を変える元年にしましょう！！